

実践レポート

学生の授業への主体的参加を促すための 授業態度評価シートの導入事例

桜井 良

要 旨

本実践レポートでは、学生の授業への主体的・能動的参加を促すために、学生同士がお互いの授業態度を観察し、評価しあう「授業態度評価シート」を取り入れた事例について報告する。実践の場となったのは、立命館大学政策科学部のコア科目である「プロジェクト入門」(1回生後期配当、受講生30名弱の小集団科目)である。結果、授業態度評価シートを取り入れたクラスでは、それまでのクラスよりも学生がグループワークに積極的に参加するようになり、授業態度が良くなり、本シートを導入した効果が示された。

キーワード

授業態度評価シート、主体的参加、1回生、小集団科目、学生同士の評価

1 実践の概要と文脈

本実践レポートでは、小集団の授業で、学生同士がお互いの授業態度を観察し、評価しあう「授業態度評価シート」を取り入れた実践について報告する¹⁾。実践の場となったのは、立命館大学政策科学部のコア科目である「プロジェクト入門」(1回生後期配当、受講生30名弱の小集団科目)である。科目の到達目標は、「政策実践研究プロジェクト・フォロワー(2回生配当科目)に関する準備として、グループワークを成功させるための条件を理解するとともに、グループワークを通じて個々人の研究能力を向上させるなかで、政策課題より研究テーマを抽出し、リサーチ・プロポーザル作成の要件にしたがって、自らの研究計画書を作成できるようになる」ことである。本授業では、基礎演習(1回生前期配当)で修得した政策実践力・政策構想力科目の基礎をもとに、グループワークの経験を通じて、個々人の研究能力を向上させ、質の高いリサーチ・プロポーザルを作成することを目指している。また、クラス担任以外の教員が各クラスに輪番で、自らの専門分野を中心とした題材を取り上げて授業運営をするローテーション授業(各教員が同じクラスを2回ずつ担当)を実施し、学生が政策科学に関わる様々な学問分野に親しむことで、グループワークと個々人の研究能力に磨きをかけることを目指している。

著者(桜井良)が担当したローテーション授業のテーマは社会心理学で、到達目標は学生が社

会心理学の重要な概念や要素を理解し、人々の行動や意識について社会心理学のアプローチで説明できるようになることであった。授業中に特定の状況・場面において人々がどのように考え、行動するかをグループで推測し、意見をまとめるグループワークを複数回実施した。

プロジェクト入門は小集団の授業ではあるが、ローテーション授業の際に、積極的な参加が見られない学生が散見されることがあった。それは、授業者（教員）が2週間ごとに代わっていくため、授業態度に関する規範ルールを確立することが難しいこと（授業者が学生に求める姿勢や授業スタイルを共有し、徹底させる時間が限られているなど）が要因であると考えられた。

そこで、学生の授業への主体的・能動的参加を促すために、学生同士がお互いの授業態度を観察し、評価しあう手法が有効であると考え、授業態度評価シートを作成し、実験的に授業に導入した。

2 実践の具体的内容

授業では、最初に学生を4、5人一組のグループに分け、授業態度評価シート（図1）を各グループに1枚ずつ配布した。各グループは、授業の最後に、グループメンバー全員のグループワークへの貢献度（50点満点）を採点する。次に、シートを隣のグループに渡し、それぞれのグループが隣のグループの各メンバーの講義への姿勢（50点満点）を採点する（図2）。同じグループのメンバーが採点したグループワークへの貢献度と隣のグループが採点した講義への姿勢の合計点はその学生の授業態度の評価点（100点満点）となる。最後に、グループが隣のグループの総合評価（グループメンバー全員が積極的に授業に取り組んでいたかなど）を100点満点で採点し、グループの各メンバーの点数とグループ全体の点数を記入したシートを教員に提出する。（表1）

授業態度評価シートの一つ目のポイントは、グループごとに、グループ内の各学生のグループワークへの貢献度の評価を行うことである。各学生はグループ内の他の学生から授業態度を終始観察され、評価されることにより、積極的に授業に参加するためのインセンティブが働くことが期待される。

二つ目のポイントは、グループ間の評価も行うことである。グループ内のみで評価をすると、一緒にグループワークをしてきた相手に気を遣い、実際の授業態度よりも良い評価をする学生がいることが想定される。そこで、授業中に一切交流がない隣グループの評価であれば、気を遣う必要がないので、また評価対象者が自分の点数を見ることがないので、正直な採点ができると思われる。

三つ目のポイントは、シートに具体的な授業態度と対応する点数が表記されていることである。「集中が途切れているように見えた（例：携帯をいじっていた）＝20点」「講義への姿勢」、「寝ていた＝0点」「講義への姿勢」、「途中集中が途切れているメンバーもいたが、寝ているメンバーを起こすなど、努力はしていた＝60点」「グループの総合評価」など、評価者が具体的にイメージしながら採点しやすいようにし、また推奨される授業態度を明記した。

授業態度評価シートを導入することで、学生はグループ内のメンバーから、隣のグループから、さらに教員から、3方向から評価されることになる。また、グループごとに総合評価が採点され

学生の授業への主体的参加を促すための授業態度評価シートの導入事例

るため、チームプレイの要素も加わり、同じグループのメンバーに迷惑をかけないようなインセンティブが働くことが期待される。

授業態度評価シート

授業の最後に、授業態度を採点してください。

グループワークへの貢献度（50点満点）はグループ内で採点し、講義への姿勢（50点満点）は隣のグループのメンバーが採点します。

氏名：

本日の授業態度は____点（隣のグループが採点）

合計 100 点				
グループワークへの 貢献度 50 点中____点 自分のグループが採点	やる気が感じられなかった (例：途中で興味を失っていた) 0 点	質問されれば自分の意見を言う程度 20 点	ある程度積極的にディスカッションに参加していた 40 点	素晴らしい活躍ぶりであった(例：積極的に質問を投げかけ、発表も率先してやっていた) 50 点
講義への姿勢 50 点中____点 隣のグループが採点	寝ていた 0 点	途中集中が途切れているように見えた(例：携帯をいじっていた) 20 点	大半は集中して聞いていた 40 点	最後まで完璧に集中して講義を聞いていた 50 点

氏名：

本日の授業態度は____点（隣のグループが採点）

合計 100 点				
グループワークへの 貢献度 50 点中____点 自分のグループが採点	やる気が感じられなかった (例：途中で興味を失っていた) 0 点	質問されれば自分の意見を言う程度 20 点	ある程度積極的にディスカッションに参加していた 40 点	素晴らしい活躍ぶりであった(例：積極的に質問を投げかけ、発表も率先してやっていた) 50 点
講義への姿勢 50 点中____点 隣のグループが採点	寝ていた 0 点	途中集中が途切れているように見えた(例：携帯をいじっていた) 20 点	大半は集中して聞いていた 40 点	最後まで完璧に集中して講義を聞いていた 50 点

グループの総合評価（隣のグループが採点）

グループ____：____点

合計 100 点				
複数人寝ており、全体的にやる気を感じなかった：0 点	携帯をいじっているメンバーや寝ているメンバーがいた：20 点	途中集中が途切れているメンバーもいたが、寝ているメンバーを起こすなど、努力はしていた：60 点	メンバーの大半が積極的に授業に取り組んでいた：80 点	最後までグループメンバー全員が積極的に授業に取り組んでいた：100 点

図 1 授業態度評価シート²⁾

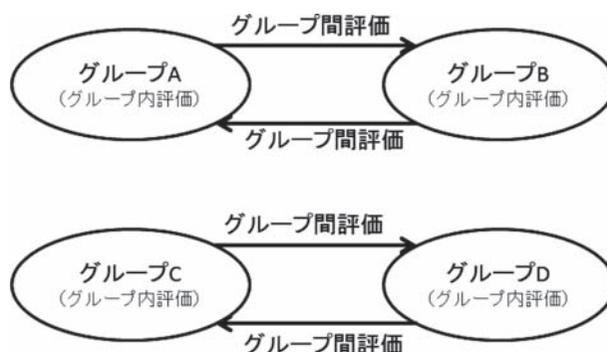
図2 グループ内評価及びグループ間評価の手順³⁾

表1. 当日の流れ (105分授業: 2015年度の場合 [2016年度は90分授業であった])

1.	出欠: 授業態度評価シートの配布と説明	5分
2.	授業: 講義と複数回のグループワーク (この間に学生はグループ内及び隣のグループのメンバーの授業態度を観察)	90分
3.	グループ内評価: グループ内の各メンバーの「グループワークへの貢献度」を評価/記入が済んだシートを隣のグループに渡す	5分
4.	グループ間評価: 隣のグループのメンバーの「講義への姿勢」を採点し、すでに記入されている「グループワークへの貢献度」と合計した点数をその学生の「授業態度」得点として記入する/さらに、「グループの総合評価」を採点する/記入が済んだシートを教員に提出する	5分

授業当日は本授業態度評価シートを配布した際に、教員が評価の仕方を学生に説明したが、学生から「どこまでを自分のグループが、どこから隣のグループが評価するのか？」などといった質問が出た。教員はその都度丁寧に解説することを心掛けた。なお、本シートを導入した理由は、あくまで学生の授業態度を改善し、主体的・能動的な参加を促すことであり、他の学生が採点した各学生の評価(授業態度評価シートの点数)は学生の成績には反映されない。授業態度評価シートの使用方法を説明した際に、この点を学生に伝えた。

3 結果と省察

授業態度評価シートは著者が担当したクラス(2015年度は1クラス、2016年度は3クラス)において実験的に導入したが、本シートを導入したクラスでは学生はグループワークに積極的に参加するようになり、また携帯をいじるなど授業に関係のないことをする学生が減った印象を受けた。どの学生も真剣に他の学生の評価・採点をしている様子で、授業の最後には全てのグループが採点をした授業態度評価シートを提出した。

2015年度は、授業後に一部の学生に本シートを用いて学生を評価した感想など聞き取りをしたが、「授業態度評価シートがあることで、少し意識が変わった」と話した学生が複数名いた。一方で、「授業に集中しているので、隣のグループの学生の授業態度を見る余裕はない」と話していた学生もいた。2016年度は各グループに自由回答のアンケートを配布し、「授業態度評価シート」を使用した感想や意識の変化の有無を尋ねた。結果、「連帯責任が生まれ、真剣に受けるよ

うになった」、「他人に見られているので、気になり、変化があった」、「人に見られていると思うことによって正される」、「携帯電話を触ろうとしなくなった」、「周りの目を気にして良く聞こうと思った。発言意欲がわいた」など、回答した15グループ全てから授業態度が変化したことを示すコメントが寄せられた。

今回、試験的に授業態度評価シートを導入し、当シートは学生の授業への主体的・能動的参加を促進するための重要なツールになりうると感じた。しかし、あくまで4つのクラスで実験的に導入した結果なので、他の学生、クラスにおいても、同様の効果が表れるのかは不明である。授業態度評価シートを導入することで、具体的に学生の授業への姿勢がどのように、そしてなぜ変わるのか（あるいは変わらないのか）など、継続して調査していく必要がある。他のクラスや授業においても、授業態度評価シートを導入することによる一定の効果が認められた際には、大規模クラスにおいても同様の効果が表れるかなど、引き続き検討することが重要である。

同時に、本シートの評価項目や配点について、より分かりやすい方法や提示の仕方がないかなど工夫の余地がある。例えば、今回使用した授業態度評価シートでは、グループワークの貢献度はグループ内のメンバーが、講義への姿勢は隣のグループのメンバーが採点することになっていた。しかし、これら二つの項目はいずれもグループ内のメンバーが採点し、グループの総合評価のみ隣のグループのメンバーが採点すれば、採点方法がよりシンプルになり、学生にとっても分かりやすい。また、授業態度評価シートの内容は、授業内容や到達目標に応じて教員が調整するのがよいと思われる。授業のテーマによっては、授業態度評価シートの実践自体を学習内容に連結させることもできる。例えば、今回は社会心理学をテーマとした授業で授業態度評価シートを導入したが、学習内容の一つである規範（人間社会集団におけるルール）の意味を学ぶためのトレーニングとして、授業態度評価シートの実践を位置づけることが可能である。

最後に、授業態度評価シートの導入について、同政策科学部の教員及び同大学教育開発推進機構の教員からのコメントや感想を紹介する。

政策科学部 上原拓郎准教授（学生主事）

「ローテーション授業で、教員側が一貫性のある指導をし、規範ルールを確立することが難しいことから、移動のない学生同士が評価するという発想は興味深いと感じます。授業への負担を避ける、またお互いを監視するような雰囲気にならないように評価項目・方法の工夫をしながら、引き続き、検討を続けると良いと思います。」

教育開発推進機構 河井亨講師（高等教育論専門）

「本実践は、授業態度に関する規範ルールを確立することが難しいという問題意識を端緒として、学生が互いに授業態度を評価する授業態度評価シートを導入するというものでした。授業の雰囲気を作ることが難しいという状況を課題として捉えた点、そこから授業評価シートを用いるという着想に至った点、実際に実施した結果を自己省察して次の展開を構想している点、その際に実際の学生の声を聞いておられる点が、日常的な授業改善のしかたとして参考になります。実践レポートを読むと、実際に、授業評価シートをさらに簡素化して用いる、あるいは manaba+R にセットするといった応用を思いつくことができました。桜井先生がさらなる工夫やその他の工

夫に取り込まれること、そして本実践レポートが共有されて新しい工夫が生まれていくことを願っております。」

注

- 1) 本実践レポートは立命館大学政策科学部執行部会議（2016年11月22日）で内容の了承・確認を頂いたうえで掲載している。
- 2) 太字の項目〔講義への姿勢 <50点満点>、授業態度 <100点満点>、グループの総合評価 <100点満点>〕は隣のグループが採点し、それ以外の項目〔氏名、グループワークへの貢献度 <50点満点>〕は同じグループのメンバーが採点する。本シートは2名分の採点票のみ表示しているが、実際はグループメンバーの人数分〔4, 5名〕の氏名〔及び授業態度得点〕を示した授業態度評価シートを各グループに配布した。
- 3) 例えばグループAはグループ内評価の後、シートを隣のグループ（B）に渡し、グループBがグループAの評価（グループ間評価）をする。同様にグループAがグループBの評価をする。

Introducing “Participation Evaluation Sheet” for fostering students` active involvement in classes

SAKURAI Ryo (Assistant Professor, College of Policy Science, Ritsumeikan University)

Abstract

In this report, a case study of introducing the “Participation Evaluation Sheets” to foster students’ active involvement in classes is presented. By utilizing this sheet, students monitored their peer’s attitudes toward classes and evaluated them. The “Participation Evaluation Sheets” were introduced in a mandatory course of College of Policy Science at Ritsumeikan University; Introduction to Project-based Learning (about 30 students are allocated in each class) offered to freshman in fall semester. Results revealed that students in classes, in which “Participation Evaluation Sheets” were introduced, more actively participated in group-work and their attitudes toward classes improved. This implied the positive effects of utilizing these sheets in classes.

Keywords

Participation Evaluation Sheet, Active Involvement in Classes, Freshman, Small Class, Evaluation by Peers

